

総 括

海堀 正博（防災・減災研究センター長/先進理工系科学研究科 教授）

時間がかかり押ししているのですけれども、最後の総括というところにまいりました。

本日は3つのテーマで、それぞれ討論を行ってまいりました。テーマ1として「土砂・洪水氾濫の対策及び避難」ということで、コーディネーターは長谷川祐治先生になっていただいて、九州大学の水野秀明先生と京都大学の中谷加奈先生からの話題提供も含めて、現在の時点で土砂・洪水氾濫がどういう現象なのか、どのように起きているのか、災害につながる、原因となる自然現象の解明に向けた研究の紹介をしていただきました。

また、その後、そういうものを踏まえた、災害をどのように防ぐのかという防災対策の最前線におられる広島県の山本悟司砂防課長様から、現在のハード対策及びソフト対策の一部についても紹介をしていただきました。また、出下一教さんからは坂町小屋浦地域の方がどのように地域の防災活動をされているかということについて紹介をしていただきました。このテーマ1つを見てもお分かりのように、防災というのは、それぞれの立場からできることをしっかりやり、そして情報交換をしながら、お互いに支え合っていくことで本当に成功するものだということが、このテーマ1だけでも感じられます。

次に、テーマ2としまして「地震被害予測手法と都市の地震対策」ということで、コーディネーターは三浦弘之先生になっていただいて討論を行いました。後藤秀昭先生からは自然現象としての地震、プレート境界の地震であったり、活断層の地震であったりというのが、私たちが今現在いる地域の近くではどのような状況なのかということ、まず自然現象を知るという観点で紹介していただき、それが災害につながらないようにするための方策の一部提案をしていただきました。田中貴宏先生からは、それを例えば、住宅地の在り方であるとか、いろいろな形での造成とか、こういうことに生かしていくという形の防災の考え方を紹介していただきました。

また、行政からということで広島県の危機管理課の松崎博幸さんから、現在の地震の被害想定に関する情報を詳しく紹介していただきました。この想定というのは、あくまでも前提条件の下に成り立っています。今回紹介していただいた地震被害想定の中で、例えば土砂災害の観点というのは、過去の土砂災害、地震による起き方を参考にシミュレーションモデルがつくられています。近年の地震、特にこの地域の周辺で影響を及ぼした地震というのは、いずれも雨の影響、地盤の中に水があまり含まれていない状態のときの地震が主だったために、土砂移動現象が多発して土砂災害という形で命を落とされるようなことが少なかったのです。でも、それがシミュレーションモデルをつくるときの基になっていることもあって、この被害想定の中で土砂災害の出方、結果は小さく見積もられているような気がしているところです。

例えば、岩手・宮城内陸地震が起きたとき、あれは東北地方での雪解けのシーズンでした。そうすると非常に大規模な土砂移動現象が多発するようなことが起き得ます。雨だけでも土砂崩れ、あるいは土石流等につながるようなものがたくさん起きる可能性のある、この周辺の地域では、もし

かすると前提条件の与え方というものが今後また重要になってくるかと思ひながら、お聞きしておりました。

地域防災ネットワークのリーダーシップを取られながら、日頃本当に広島市だけではなく、あちこちの市町を訪ねてはいろいろな地域防災活動を活発に指導されている柳迫長三さんからも、非常に貴重な、地域の防災活動をよりアクティブにするための活動報告がなされました。ありがとうございました。このテーマではいろいろな情報、情報源というのは、ここから得ることができるということを新たに知られた方も多かったと思います。大事なことだと思います。

それから、テーマ3、これはたった今終わったばかりなのですけれども、ここでも最初にコーディネーターの藤原章正先生から全体像が示された後、研究者として繁本憲文先生から、感染症を対象としたいろいろな対策の話、現状、それから神田佑亮先生からはBCPの関係でもいろいろな想定が必要であって、想定内でないことが起きているという話が紹介されました。

行政からは東広島市の危機管理課長の神尾博志さんから、東広島市で行われているハザード情報の伝え方が紹介されました。ここでは、冊子体という形で、誰もが見ることのできるような情報源が紹介されましたので、多くの人にも役立たせてもらえるものと思います。

それから、地域の代表としましては中国新聞社の園部貴之さんから、これもまた非常に大事な、地域住民からの情報発信というものがいかに大事であるか、あるいは、それをうまく使うことによって実際に避難行動を取る人を増やすことにつながる、分散避難の促進につながるということについて紹介していただきました。

このような形で、研究者の立場から自然現象としてのメカニズムをしっかりと研究し、特性をつかみ、それを踏まえた上での防災対策として行政からなされるハード対策であったり、ソフト対策、しかし、住民は受動的に恩恵を受けるだけではなくて、むしろ住民自身から地域防災活動の中で生かしながら、さらに住民の中で得られる情報というのを外にうまく発信することこそ、これがほかの人の命を守ることにともつながるのだと。

つまり、防災というのが、このテーマ2も3も含めて、いろいろな立場の人が、それぞれの立場からできることをしっかりと共有することで本当の意味の防災につながるということ、今日実は、この討論の中でも1、2、3、共通して示されていたことではないかと思ひました。

大学としては自然現象、もしくは、自然だけではなくて社会の中の人間の行動を踏まえた仕組みであるとか、社会行動の中で起きやすいことであるとか、そういうものの科学的な分析を進めますが、それが研究レベルだけで終わっているのではなく、必ずそれを、例えばハード対策やソフト対策という形で行政に生かされ、さらには住民の中からも、それを使いながら積極的に横のつながり、縦のつながり、ほかの人の命を救うことにつながる情報発信につなげてもらうことが非常に大事であるなど、これを今日、このオープンディスカッションでは改めて確認できたなど思ひています。

今回は2周年記念ということで行いました。しかし、コロナ禍、コロナの猛威が再燃している、そういう中でのオープンディスカッションでありましたために、一堂に会して皆様の間で意見交換をするような場を設けることができませんでした。これが本当に残念です。

また、今日は通信事情、やはり途中で問題が生じたりして数々のトラブルも起きたと思います。声が聞こえなかったり、画像が乱れたり。しかし、それを超えるような討論ができていたのではないかと思います。今後とも、広島大学の防災・減災研究センターの活動ももちろん、広島県に住んでおられる人々や、もちろん国・県・市・町の行政の方々の御尽力も受けた上で、この広島の周辺地域の防災が本当にうまく成功するように心から祈念しているところです。

私は自分の資料の中では災害とは何か、防災とは何か、あるいは防災・減災というようにわざわざ減災という言葉をつけてはいるのだけれども、本当の意味の防災というのは減災ももちろん含めた意味合いであるとか原則論みたいなことをまとめて言うつもりでございました。結局は、そういう話をあまりしないで済んでよかったなど。むしろ、この3つのテーマの中身、それぞれ本当に充実していたことをうれしく思うとともに、これが今後皆様方にとっても何らかのプラスになる情報であることを心から念願しつつ、終わりの言葉とさせていただきます。